全農、サウジから LPガス直輸入

10年の長期契約

今年は20万トン目標

全国農業協同組合連合会（全農、石川正平会長）は、LPガスの直接輸入で、サウジアラビアのペトロミン（石油鉱物資源公団）と協議してきたが、このほど話し合いがまとまり長期輸入契約を完了した。一方、国内の坂出輸入基地（香川県坂出市）の建設も三月末には完全に体制を整える。このため、初年度の今年は約二十万トンの直輸入を目指し、七月から本格操業（出荷）に入る方針である。

坂出（香川）に基地完成へ

全農のLPガスの長期輸入契約は、二月十九日～二十一日の間の話し合いでまとまった。宮崎貫全農副会長、小森祐三全農常務らが現地のペトロミンを訪れ、ザムザミ副総裁らと最終的な協議をした結果、全農とペトロミンとの間で、十年間の長期輸入契約をすることになり、契約手続きを終えた。

昨年十月、全農は石油輸入業者としての輸入資格を得、それ以降、ペトロミンとの間で、具体的な長期輸入の協議を進めてきた。輸入量は毎年、協議して決めるが、初年度の今年は約二十万トンの輸入を目標にしており、四月下旬には輸入第一船が入港する予定である。

直接輸入を受け入れる全農坂出LPガス輸入基地も、五十六年四月に着工して以来、順調に工事が進んだ。現在、ほぼ完成の状況にあり、今月末には完全に体制を整え、第一船の入港を持つ段取りだ。

系統農協のLPガス事業は、三十六年に全国規模で取り扱いを開始して二十年を経過。農村の需要は推定で百十二万トンと見られるが、このうち農協の取扱量は五十三万トンに達し、生活・営農両面での必需品となっている。全農では、この直輸入を基地を拠点に、当面、家庭用を中心に供給の拡大を図って行く。このため、県連の充てん所を増やし、供給システムを広め、加入戸数の拡大を図り、流通の合理化も同時に進める考え。

宮崎貫全農副会長の話　LPガスは供給が不足ぎみで、契約が難しい中、長期契約が出来た。ペトロミンを訪れ、相手方は全農を深く信頼していること、また、直接的な消費者（実需者）団体との契約ということで、需要拡大を相手も期待していることがわかった。プロパンを安定的に供給するため、取扱体制を一層強化し、農家組合員の有利購買に大きく寄与して行きたい。

（1983年3月2日付、日本農業新聞）